

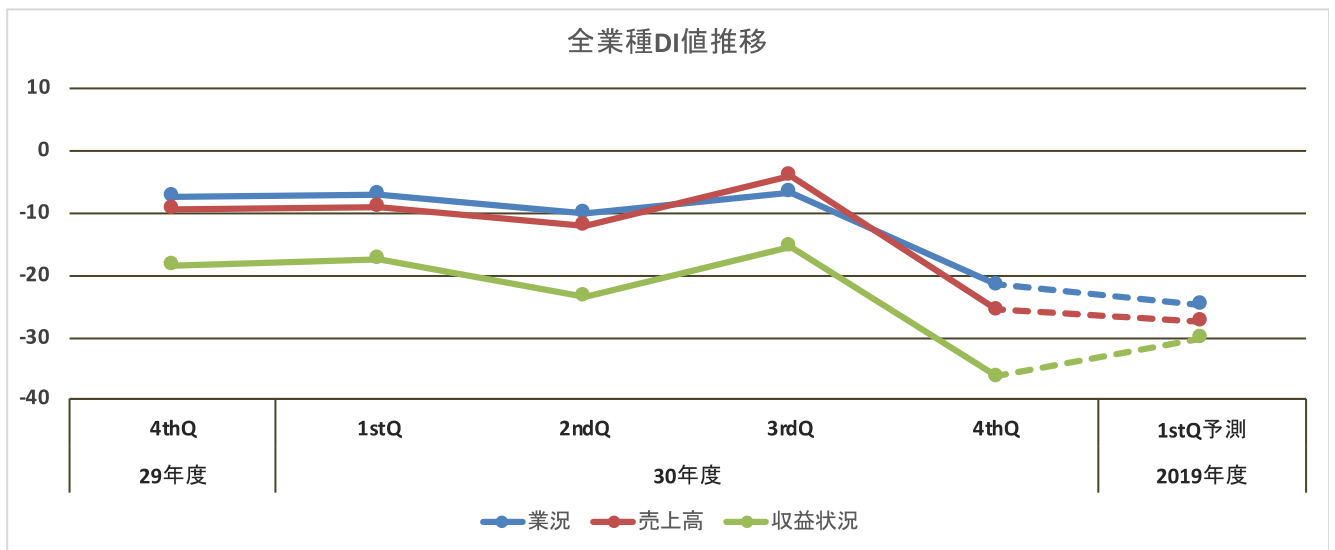
厚木商工会議所 平成30年度中小企業景気動向調査報告書 30年度を振り返って

厚木商工会議所では、厚木市内の中小企業を各業種（製造業、建設業、運輸業、小売業、飲食業、卸売業、不動産業、サービス業の8業種）から無作為に抽出した会員へ四半期ごとに年4回アンケート方式により調査を実施してきた。そこで30年度分の年間結果をまとめてみる。

なお、調査対象企業数は840社である。回収率は平均23.8%（第1回23.8%、第2回23.9%、第3回23.6%、第4回24.9%）であった。

今回の経過グラフは、該当業種と厚木市全業種、日商LABO調査全国平均を並べ関連性の参考とした。

1、全業種（上記8業種の総合DI）

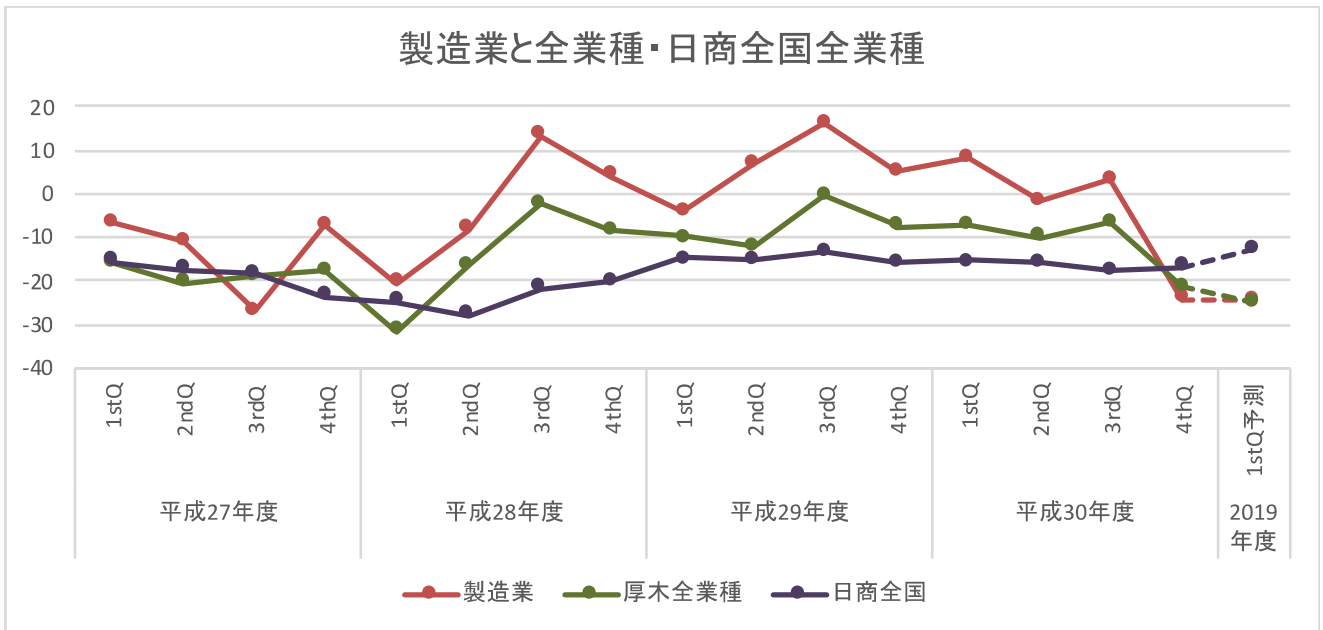


全8業種を総合すると、業況・売上高・収益状況の3要素から見てきたのは、ある程度の相関性と、30年度後半からの景気持ち直し感が見えたが、その後に低下傾向が続いた。又、業況・売上高より収益状況が低い点も気になる。この間、大企業は業績が良かった時期であるが、中小企業ではその恩恵が少なかったようで、続いてきた業況も腰折れ感が見られる。

以下は30年度だけでなく、調査を開始した27年度から4年間の傾向を出してみた。

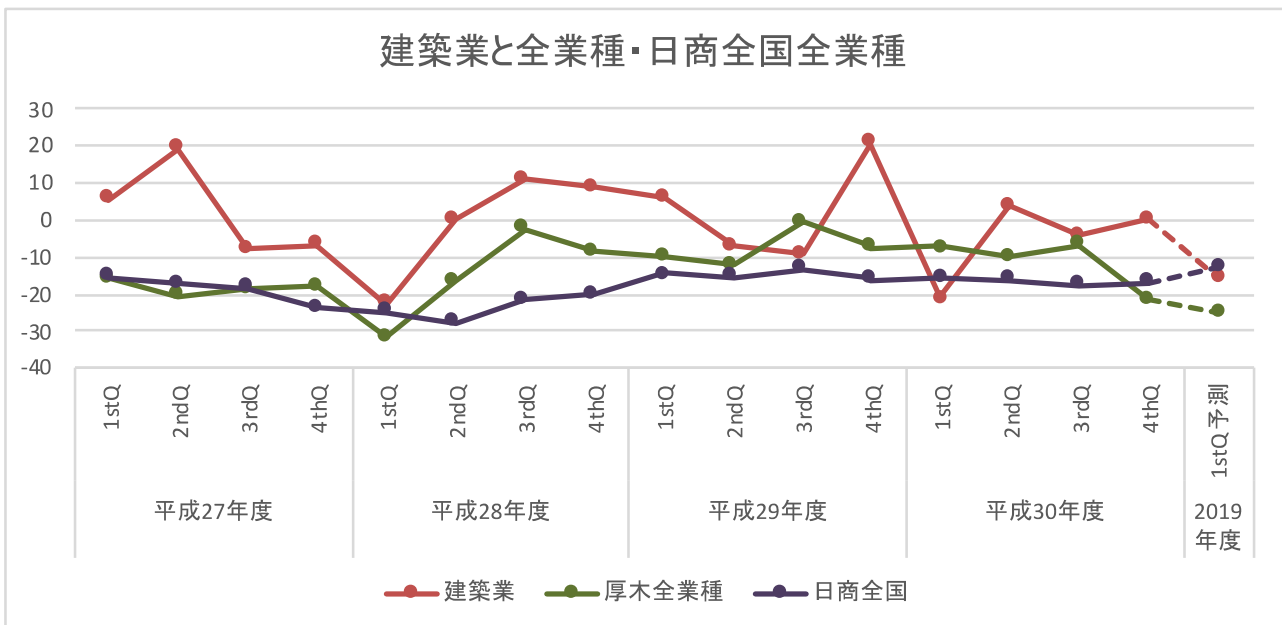
2、業種別結果より（各グラフは業種別 27～30年度業況D I・次期D Iを含む）

1) 製造業



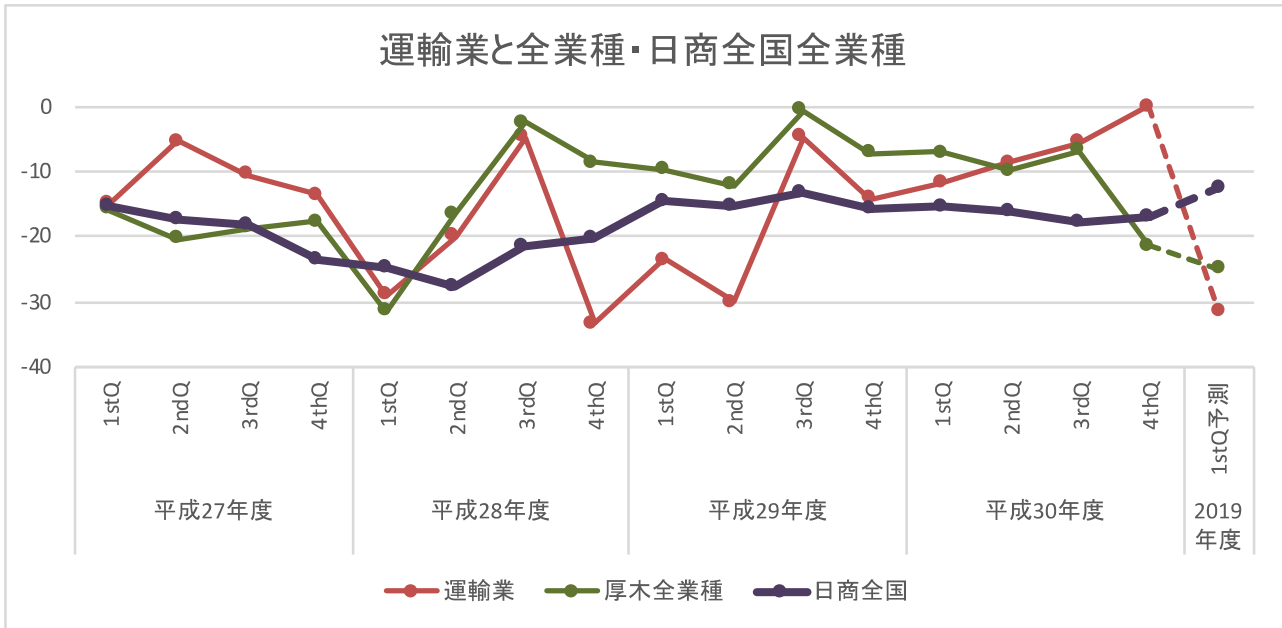
グラフで見るとおり、厚木の製造業は平成27年度第4四半期から平成30年度第3四半期までの3年間は日商、厚木全業種の動向に比べ、優位な傾向を示し続けてきたが、平成30年度第4四半期は厚木全業種よりさらに低い値を示している。厚木の製造業はスマホや建機に代表される中国市場に影響される業種や関連する企業が多いためかと考えられ、米中の貿易摩擦が今後さらに拡大すると、その影響が懸念される。

2) 建設業



27年度の好況感が28年度に入り一時停滞したが後半に持ち直しており、30年度へ継続している。次期にも期待感はあるが、慎重な見方であろうか。厚木市内の企業平均と比較しても景気は良い業種とみたい。さらに全国平均と比較しても、業況はよさそうで、この好況感を31年度も維持できるか、世間の景気動向に期待がかかる。

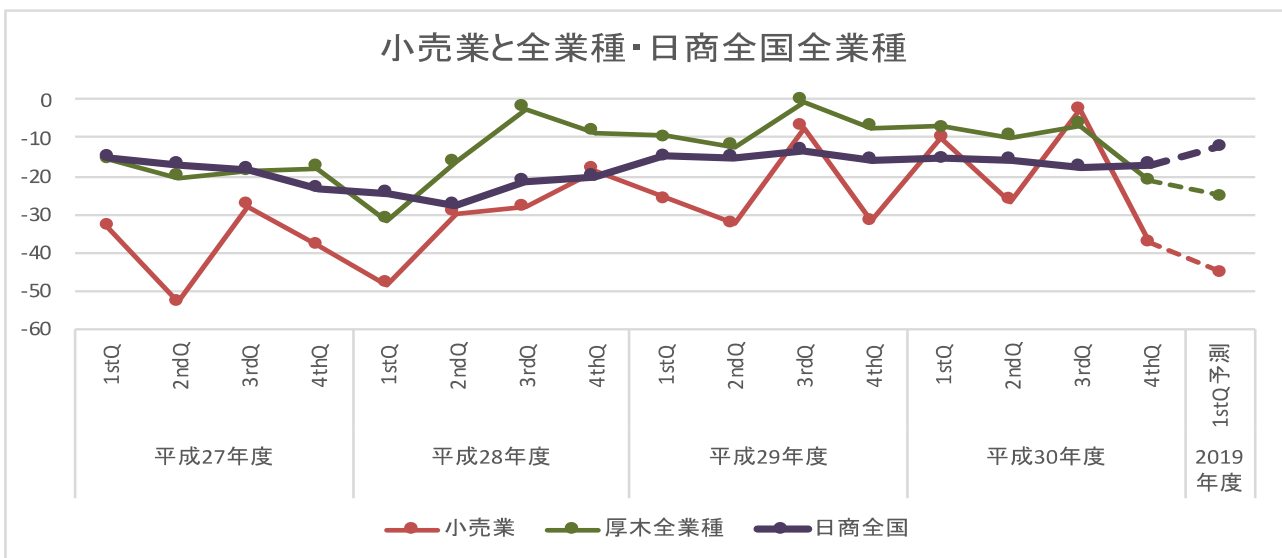
3) 運輸業



全体的に年間を通して低迷、好転と大きく変動している。変動の傾向は、厚木、日商の傾向と比較して、大きく乖離している。特に 29 年度後半から 30 年度においては、日商の傾向と比較して好転の傾向を示している。輸送需要の増加により仕事が増えた、ということであろう。

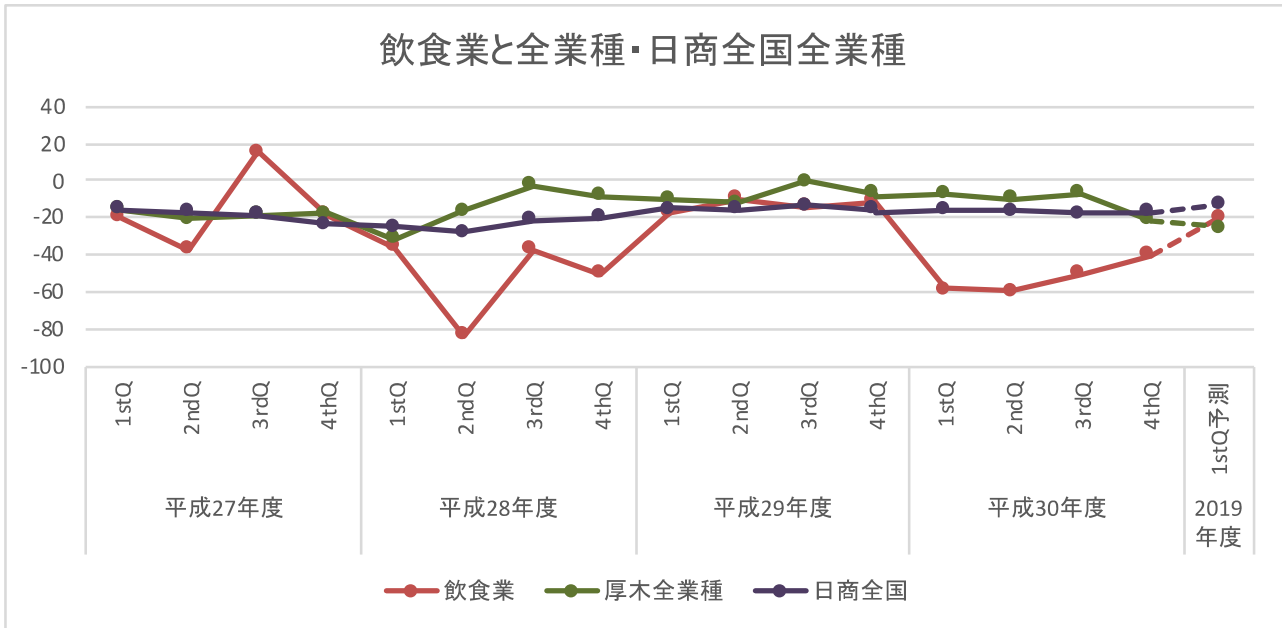
しかし、次期予測は大きく悪化を示している。新年度が始まり、輸送需要が減退するものとは考えられない。人手不足により受注を逸失する懸念しているのではないか。なおこのグラフには記載されていないが、当業界における人材不足・人手不足は看過できないものがある。

4) 小売業



小売業の過去 4 年間の景況感は、季節変動を繰り返しながらも、改善を続けてきたと言える。しかしながら、平成 30 年度の第 4 四半期の落ち込みは季節変動を超えた感があり、不安を呼び起こす。2019 年度の第 1 四半期予測も大きく悪化していることから、経営者マインドはかなり冷えてきているようにみとれる。日商の全国調査の数値が好調を保っていることから、厚木の地域的な傾向であるのか、季節変動が多少大きく出てしまっているだけ次四半期で回復を見せるのか、注目されるところである。

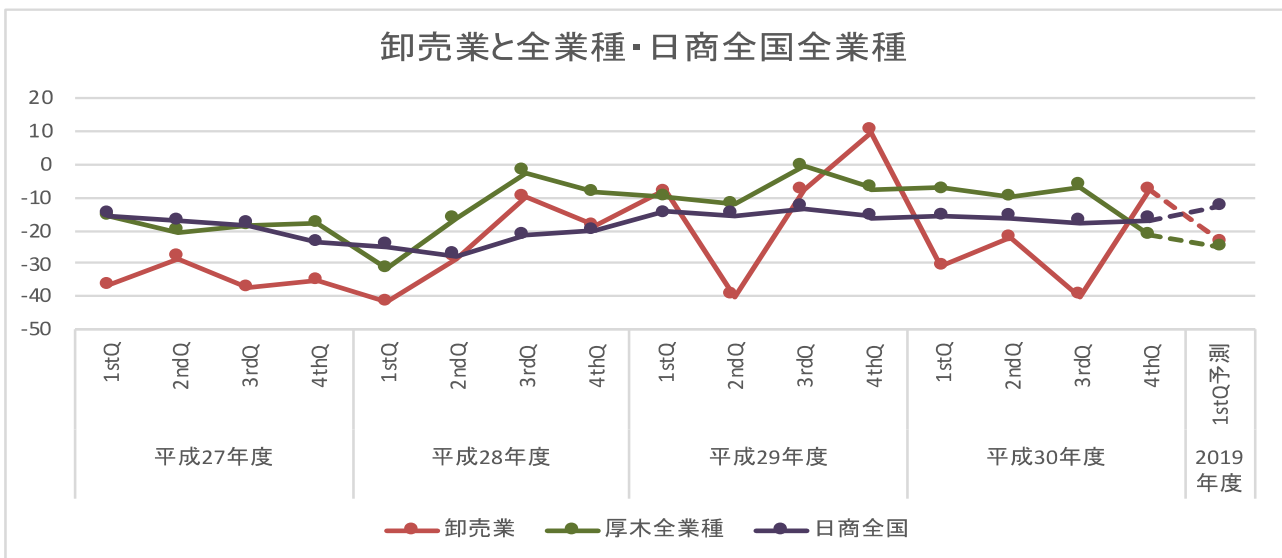
5) 飲食業



平成30年度の飲食業の景況感は、第1四半期に大きく落ち込んだ後、一貫して回復傾向を維持している。第3四半期に比較して第4四半期の景況感がさらに回復していることは注目に値するし、2019年度の第1四半期予測がさらなる回復を見込んでいることは、継続的な景気回復を経営者が取り込んでいるということ、他業種にはみられない傾向である。

もともと、飲食業の調査はサンプル数が少なく、地域の景況を正しく反映しているか疑問があり、全面的に信頼できるわけではないことは注意が必要である。

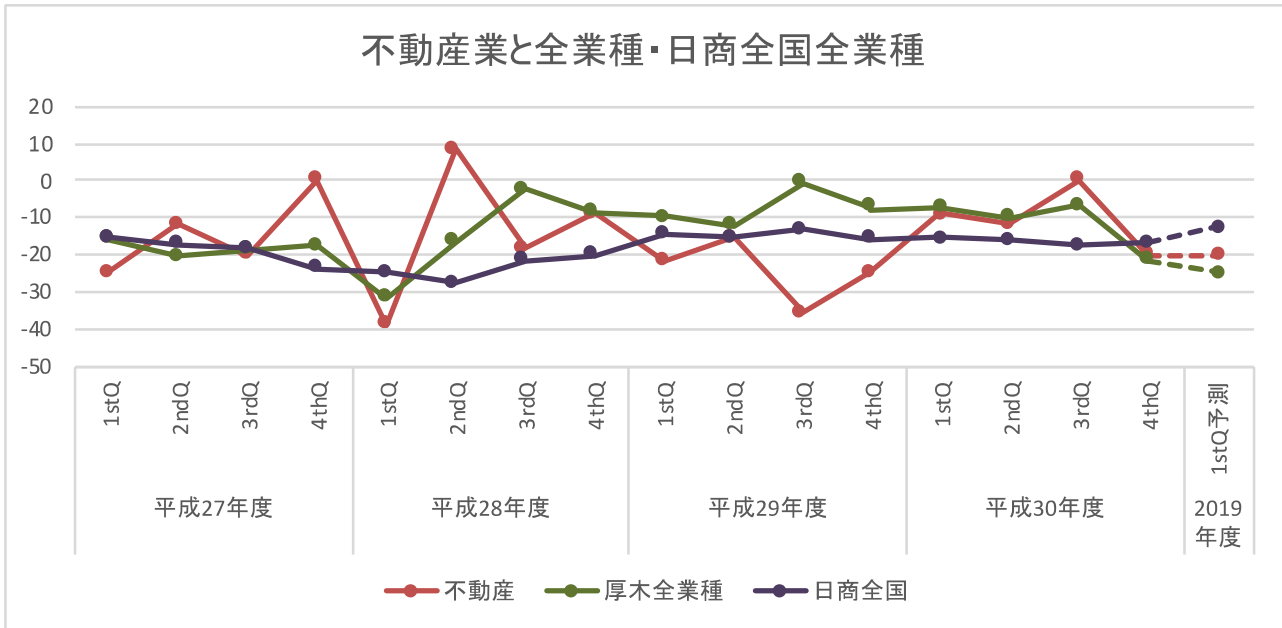
6) 卸売業



平成27年度の卸売業の業況は低めであったが、28年度に回復し、29年度には一度の改善が見られたが、その後は低調の動きとなっている。厚木市全体の動きや全国平均より改善の傾向が維持できるかに注目したい。

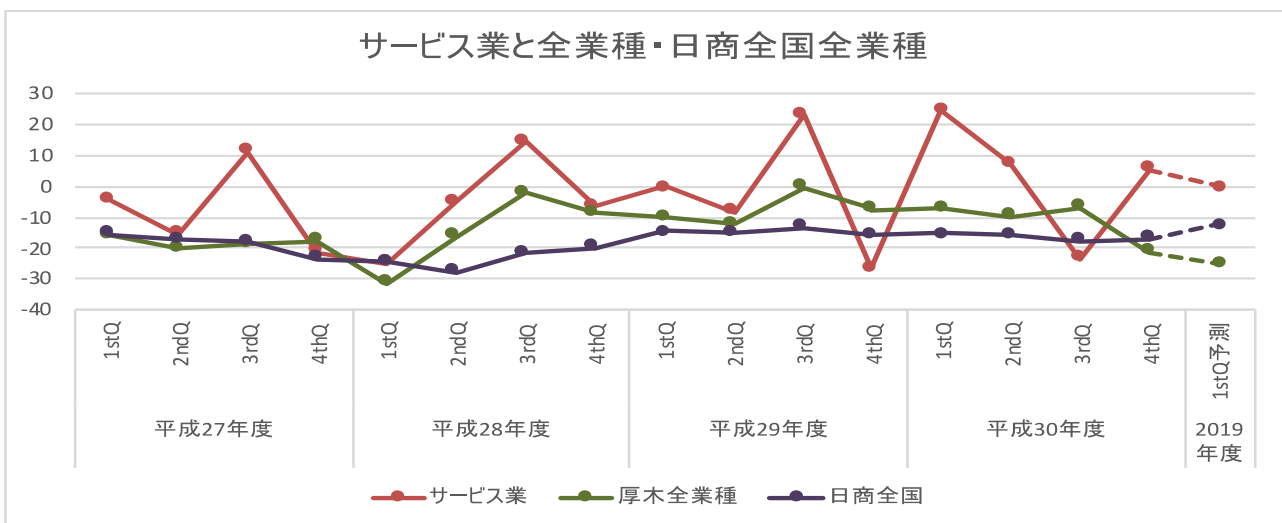
今後については、多少横ばい傾向ではあるが、厚木市内の動向に連動する様子が見て取れ、更に全国平均に同調するか今後期待したい。

7) 不動産業



平成27年度からの業況の推移をみると、平成29年度までは厚木全業種よりさらに乱高下傾向であったが平成30年度は厚木全業種に倣った動きを見せている。平成30年度は第3四半期では久しぶりのゼロ値であったが第4四半期では日商全国より下回っている。厚木全業種よりやや上回ったものの、2019年度第1四半期の業況予想でも現状維持が予想されている。

8) サービス業

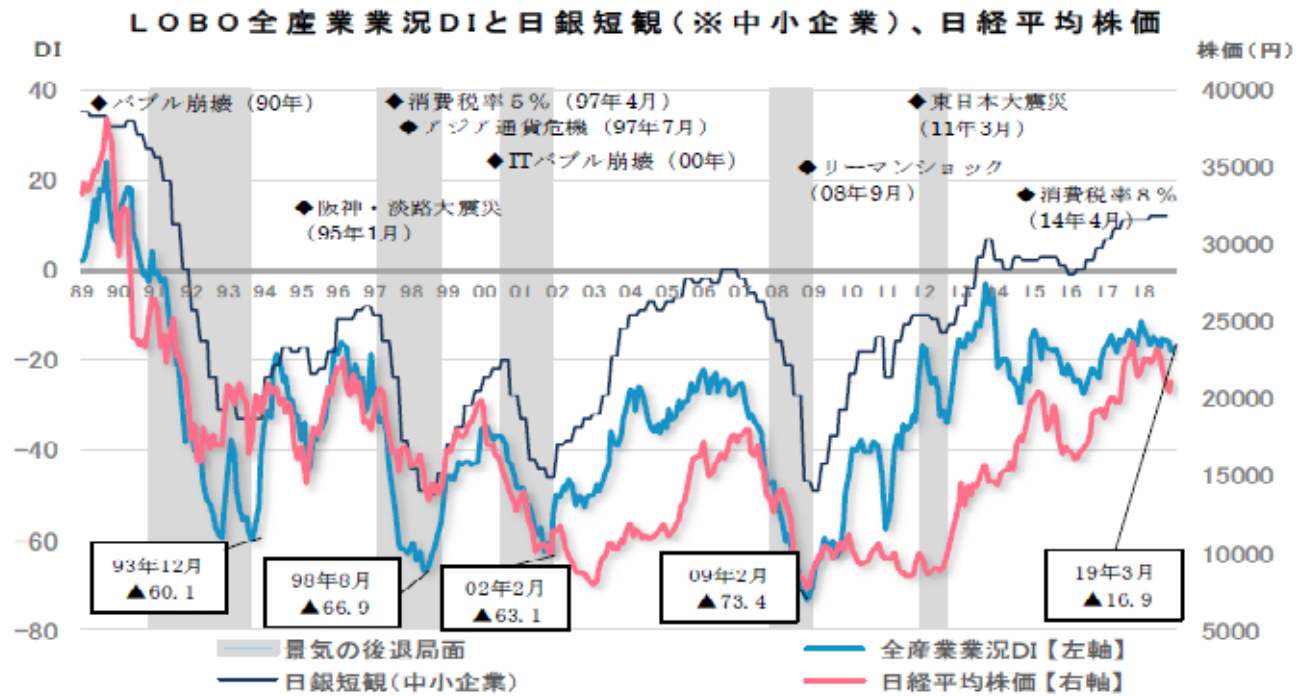


全体的に年間を通して低迷、好転と大きく変動している。しかも変動幅は、厚木、日商の傾向と大きく乖離している。当業種の調査回答企業には宿泊業、理・美容業が多いので、集客の季節変動による影響、それに調査回答企業数が少ないことにより、業況が大きく振れるのであろう。従って、日商全国全業種の傾向と比較するのは適切ではない。

また29年度以降の振れ幅が大きくなっている。当業種の厚木市内における事業環境に変化があるのか、検討することが必要ではないか。

次期予測は、厚木、日商と比較してプラス側にある。季節的に集客が増加するとの期待によるものであろう。

(参考資料)



※短観(中小企業): 資本金2千万円以上1億円未満の企業が調査対象

(LOBO調査結果より抜粋資料)